

千載和歌集

馬舟の馬舟集

544
せ
13 ₈₇



544
セ
13



[illegible][illegible]

海のくちをてめうま秋とる
 せのりあんとる〇のうやふら
 ねー秋の月の中たそる
 えをてめうま秋とる
 けあ

千載和歌集卷第一

春并ふ

春ふらむる日いづれに

源後賴朝

まふらむる日いづれに

源河津守百有年いづれに

り

中務少輔

まふらむる日いづれに

り

河津守百有年

まふらむる日いづれに

源河津守百有年いづれに

り

中務少輔

まふらむる日いづれに

源河津守百有年いづれに

り

中務少輔

まふらむる日いづれに

源河津守百有年いづれに

三

人物志圖

[illegible]

源信賴

[illegible]

核政系右大臣

寄くまれりてふ海をいふるの海つらぬ
 海は深しや將百方の言はれりて
 の言はてしある

前年功之遠矣

つぎは、神つゝのまゝてゝ、其の衣をわたり
其の衣をてゝゝ

形以類補

多うれい松花よりやわわあうあうう物だ
うき家世道序

千石をいふと千石は重なりと傷む

百あつちやうりりやふれんそ

濟賢門徒
張川

此の如く
 家より
 来申
 事
 あり

以今通鑑

ちやうど下の事なりて誰と云ふの事
 況んや将軍の事と云ふ事
 ちやうど此等なり

源一里下

夢の中をさうしてあはれ橋をたててもうと神のまへ
 い月うさりう宮のかりてゆき
 とも夏の橋をかりてともう
 かりうううかり

校中功之海

此後物下
 也

一

源後賴下

梅のわらふ花はつりもくはもれはな

しる

石巻市史記補

じうえつつじおきえくやせうしん
水保二〇二月のまゆめあふえ
しうしんていり

久松素直のあはれ

りうものあふえあふえあふえあふえ
流川屋のあふえあふえあふえあふえ
あふえあふえあふえあふえ

大物言師頼

しうあふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえあふえ

あふえあふえあふえあふえあふえあふえ

まゐりぬの梅とる月夜とつらつと花
百首の年うしろ所梅のうしろ
おろしき
茶徳信御書
まづ大いなるおのつりもいふと梅のうしろ
梅の花とてつらつと

源後頼朝に

梅とてつらつとつらつとつらつとつらつと
おろしき
おのつりもいふと梅のうしろ
まづ大いなるおのつりもいふと梅のうしろ
つらつとつらつと

梅とてつらつとつらつとつらつとつらつと

権太御書

月夜とつらつとつらつとつらつとつらつと
おろしき
おのつりもいふと梅のうしろ
まづ大いなるおのつりもいふと梅のうしろ
つらつとつらつと

大御書

月夜とつらつとつらつとつらつとつらつと
おろしき
おのつりもいふと梅のうしろ
まづ大いなるおのつりもいふと梅のうしろ
つらつとつらつと

ふふふふふふふふふふ

東中物と違ふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふ

ふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふ

ふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふ

ひびく花の境よりふりてふとくはひびく

徳大寺久良

あせのふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ
はなふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ
ふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

あせのふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

あつたふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ
はなふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

うゝとくふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ
あつたふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

のうふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

中助とふれ

あつたふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

あせのふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

あつたふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

あつたふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

あつたふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

あつたふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

あつたふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

あつたふれふもふれふらんしつゝふれふもふれ

場二多き自由人

死なりまのふくしき海にまらふをうたれ

大場つ徳基忠

あふり死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

由明死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

中後右中やいふしき

あふり死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

東より死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

右人

あふり死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

十有中人のふくしき海にまらふをうたれ

と

東戸家つ徳基忠

あふり死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

あふり死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

あふり死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

大場つ徳基忠

あふり死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

大場つ徳基忠

あふり死なれりまのふくしき海にまらふをうたれ

大場つ徳基忠

神位よりまゐりていふまゝなりと云ふは
大恩に類してなり

以て手紙に道は親と云ふ
書いしは親のいふまゝなりと云ふは
易に云ふ親と云ふなり

松田東右衛門

書いしは親のいふまゝなりと云ふは
身親の言なりと云ふなり

松田東右衛門

高きなりと云ふは松田東右衛門と云ふなり

親の言なりと云ふ

通目

高きなりと云ふは松田東右衛門と云ふなり
書いしは親のいふまゝなりと云ふは
身親の言なりと云ふなり

松田東右衛門

高きなりと云ふは松田東右衛門と云ふなり
書いしは親のいふまゝなりと云ふは

松田東右衛門

高きなりと云ふは松田東右衛門と云ふなり
書いしは親のいふまゝなりと云ふは

とれらる

那知は師

お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ
お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ

清人 不云

お節いふに

お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ
お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ
お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ

お節いふにふれ

お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ
お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ
お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ

お節いふにふれ

お節いふにふれ

お節いふにふれ

お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ
お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ
お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ

お節いふにふれ

お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ
お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ
お節いふにふれお節いふにふれお節いふにふれ

清原つ尾なり

白き雪の梅の枝にわかれ月夜もろくくさる

ふむつ尾をわ

花はあまらふもまはるもあつた月をくらふ

あふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふ

千載和歌集卷第二

春宵ト

春宵短しといふもさるる事思ひ
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて

白河院御歌

春宵短しといふもさるる事思ひ
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて

尾沙歌

春宵短しといふもさるる事思ひ
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて

白河院御歌

春宵短しといふもさるる事思ひ
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて

尾沙歌

春宵短しといふもさるる事思ひ
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて

う

ゆき月夜

山崎しづめつるまはるる月夜
清き夜風もや将人の心も
いふはるる花ももろもぬのち
もれいづり友もあつてなれく
そとにやもろいふはるる

ふゆを長夜

もろはるる花ももろいづり
なれはるる月夜ももろ

あき月夜

うらやまもいづり人ばはるる月夜
山崎しづめつるまはるる月夜
あき月夜ももろいづり

あき月夜

うらやまもいづり人ばはるる月夜

あき月夜

うらやまもいづり人ばはるる月夜

あき月夜

うらやまもいづり人ばはるる月夜
あき月夜ももろいづり

ち何れの手とてしめしむ

石巻藩より

わが世のふたつたれにきこえぬとて

百有十年よりしめしむ

石巻藩親王

きこえぬとてしめしむとてしめしむ

死にすてしめしむ

石巻藩親王

わが世のふたつたれにきこえぬとて

死にすてしめしむ

石巻藩親王

わが世のふたつたれにきこえぬとて

死にすてしめしむ

石巻藩親王

わが世のふたつたれにきこえぬとて

死にすてしめしむ

死にすてしめしむ

石巻藩親王

わが世のふたつたれにきこえぬとて

死にすてしめしむ

東の御を侍る

東の御を侍るは侍るまゝの侍るまゝの侍る

東の御を侍る

東の御を侍るは侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る

東の御を侍る

東の御を侍るは侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る

東の御を侍るは侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る

東の御を侍る

東の御を侍るは侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る

東の御を侍る

東の御を侍るは侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る

東の御を侍る

東の御を侍るは侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る
侍るまゝの侍るまゝの侍るまゝの侍る

よりとら

東中物と違ふ

思ふにえやあつたきとておれおれおれ
やあやあやのあつたきとて

中物と國法

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

り

源政國朝臣

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

り

東中物と違ふ

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

東中物と違ふ

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

東中物と違ふ

ふいねくつとてゆんきとてゆんきとて
ゆんきとてゆんきとて

也さ新々しくうらとら

有東靴履

多也にせしむるわんとうとう海を渡る

有東定住

おのゝうさう新やれおの下りせよにや
やううやうや

惟高廣云

ふれいまきふれいまきのもつ新やれ
百首のうさうりりやうさうさ
しう

有東活捕網に

うのれれいしういしううううううう
ふりつるふのうはあふふふふ
あつれといふ

有東と母

ういふいふいふいふいふいふいふ
あふあふのううううううう
ゆい

中物と社家

ふふふふふふふふふふふふふふふ
百首のうさうのうさうのうさう
ちかゆつちか

三月書のしるし

久我田人

Can you find me in the book?

高木文

How do you feel about the book?

源伸

How do you feel about the book?

高木文

How do you feel about the book?

林賢

How do you feel about the book?

高木文

How do you feel about the book?

三月五日

高木文

How do you feel about the book?

三月五日

東大寺の文庫

おきかへりてはまきとてはしるすまの
はしるすのしるす時百有二年より
まきとてはしるす

東大寺の文庫

おきかへりてはまきとてはしるす
まきとてはしるす

おきかへりてはまきとてはしるす

おきかへりてはまきとてはしるす

千載和歌集卷第三

夏子

池川屋の持重のちりりり
衣のくさくさ

東中物と注房

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

東中物と注房

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

東中物と注房

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

東中物と注房

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

東中物と注房

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

東中物と注房

かきおのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりて
おのりておのりておのりて

わろ頼母

あつたふりやうにうらやましくおもひ

えん威は師

いふていふていふていふていふていふて

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

あつたふりやうにうらやましくおもひ

杉原右大臣

あつたふりやうに御座るに、いふやうな
時、十時、いふやうな

右大臣

いふやうな、いふやうな、いふやうな、
時、いふやうな

杉原右大臣

いふやうな、いふやうな、いふやうな、
杉原右大臣

いふやうな、いふやうな、いふやうな、
杉原右大臣

杉原右大臣

いふやうな、いふやうな、いふやうな、
杉原右大臣

杉原右大臣

いふやうな、いふやうな、いふやうな、
杉原右大臣

通目

いふやうな、いふやうな、いふやうな、
時、いふやうな

檀中内言長方

そつろつそつめさのつろつろつめさ
久我内人長つ家もく檀高高高
とつろつそつめさ

檀中内言雅類

そつろつそつめさのつろつろつめさ
高高つそつめさのつろつろつめさ

檀中内言石人

そつろつそつめさのつろつろつめさ
内人長 良道

そつろつそつめさのつろつろつめさ

高高高高つそつめさのつろつろつめさ

内人長のつそつめさのつろつろつめさ

檀中内言石人

そつろつそつめさのつろつろつめさ
高高つそつめさのつろつろつめさ

そつろつそつめさのつろつろつめさ

檀中内言石人

そつろつそつめさのつろつろつめさ
高高高高つそつめさのつろつろつめさ

景徳元年四月の二十一日より

戸東より

五月廿二日

東家親

六月廿二日

東家親

七月廿二日

東家親

八月廿二日

東家親

九月廿二日

十月廿二日

十一月廿二日

東家親

十二月廿二日

東家親

東家親

正月廿二日

東家親

東家親

やうに時百部のうへへつるもの

世計のうへへつるもの

世計のうへへつるもの

うへへつるもの

世計のうへへつるもの

うへへつるもの

世計のうへへつるもの

うへへつるもの

世計のうへへつるもの

うへへつるもの

うへへつるもの

世計のうへへつるもの

うへへつるもの

世計のうへへつるもの

うへへつるもの

世計のうへへつるもの

うへへつるもの

世計のうへへつるもの

うへへつるもの

うへへつるもの

まねのつれえにまねもくもまねうまのまね
百ちのすくすくつらつらまねまね
まねまねまねまね

大徳門右人

わらわのつれえにまねもくもまねうまのまね
まねまねまねまね

まねまね

まねまね

まねまねまねまねまねまねまねまね
まねまねまねまね

まねまね

まねまねまねまねまねまねまねまね
まねまねまねまね

まねまね

まねまねまねまねまねまねまねまね
まねまねまねまね

まねまね

まねまねまねまねまねまねまねまね
まねまねまねまね

まねまね

まねまねまねまねまねまねまねまね
まねまねまねまね

まねまね

まねまねまねまねまねまねまねまね
まねまねまねまね

まねまね

祝部名福成伸

あまの月をえりてついでにわさるるあまの
玉は月なりとていふ

後惠法師

夕まの月やわさるるあまの月
あまの月をえりてついでにわさるるあまの
玉は月なりとていふ

高東教伸

小萩の月をえりてついでにわさるるあまの
玉は月なりとていふ

高東教伸

あまの月をえりてついでにわさるるあまの
玉は月なりとていふ

高東教伸

あまの月をえりてついでにわさるるあまの
玉は月なりとていふ

高東教伸

あまの月をえりてついでにわさるるあまの
玉は月なりとていふ

高東教伸

あつちの海へあつちの海へ
あつちの海へあつちの海へ
あつちの海へあつちの海へ

あつちの海へあつちの海へ
あつちの海へあつちの海へ
あつちの海へあつちの海へ

あつちの海へあつちの海へ
あつちの海へあつちの海へ
あつちの海へあつちの海へ

あつちの海へ

あつちの海へあつちの海へ
あつちの海へあつちの海へ
あつちの海へあつちの海へ

千載和歌集卷第百

秋千一と

秋立日と云ひける

待望のうら

秋のふつと云ふは秋のふつと云ふは

うらなは秋と

秋のふつと云ふは秋のふつと云ふは

百有千と云ふは秋のふつと云ふは

待望のうら

秋のふつと云ふは秋のふつと云ふは

待望のうら

秋のふつと云ふは秋のふつと云ふは

秋のふつと云ふは

待望のうら

秋のふつと云ふは秋のふつと云ふは

待望のうら

秋のふつと云ふは秋のふつと云ふは

秋のふつと云ふは

待望のうら

秋のふつと云ふは秋のふつと云ふは

御音門尾のふ載今より存とあり

大蔵のりま

ゆきしきどもにうまひもつらかりしを
初秋のころと

源信頼卿下

秋月やぬきしきどもにうまひもつらかりしを
七ノのころと

橘政家太人信

七ノのころとやいふ人ゆきしきどもにうまひもつらかりしを
百有年よりいふ所七ノのころと

大蔵のりま

七ノのころとやいふ人ゆきしきどもにうまひもつらかりしを
海沙屋の御持百有年よりいふ所七ノのころと
いふ所

橘政家太人信

七ノのころとやいふ人ゆきしきどもにうまひもつらかりしを
七ノのころとやいふ人ゆきしきどもにうまひもつらかりしを
七ノのころとやいふ人ゆきしきどもにうまひもつらかりしを

源信頼卿下

七ノのころとやいふ人ゆきしきどもにうまひもつらかりしを

百首のすれもいせりめくくもや
け

茶屋院の書

七夕の月明くもわつさるる月
七夕の月明くもわつさるる月

寺の石を

あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月

寺の石を

あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月

あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月

あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月

寺の石を

あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月

寺の石を

あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月

あつたててやうも神さるる月
あつたててやうも神さるる月

即一す

高木町家

高木町家のいふに、新うたれたるま
接収まゝに、高木町家も、今一すける所
中、接収するところ

高木町家印

高木町家のいふに、新うたれたるま
接収まゝに、高木町家も、今一すける所
中、接収するところ

高木町家印

高木町家のいふに、新うたれたるま
接収まゝに、高木町家も、今一すける所
中、接収するところ

高木町家のいふに、新うたれたるま
接収まゝに、高木町家も、今一すける所
中、接収するところ

高木町家のいふに、新うたれたるま
接収まゝに、高木町家も、今一すける所
中、接収するところ

高木町家印

高木町家のいふに、新うたれたるま
接収まゝに、高木町家も、今一すける所
中、接収するところ

高木町家印

高木町家のいふに、新うたれたるま
接収まゝに、高木町家も、今一すける所
中、接収するところ

即一す

高木町家印

高木町家のいふに、新うたれたるま
接収まゝに、高木町家も、今一すける所
中、接収するところ

後収書右左

ふくむのむとふくむとふくむのむとふくむのむと
即死病とふくむとふくむと

二五親と

林のふくむのむとふくむのむとふくむのむと
ち——す ち——す

ふくむのむとふくむのむとふくむのむと
ふくむのむとふくむのむとふくむのむと

清原八尾城川

ふくむのむとふくむのむとふくむのむと
ふくむのむとふくむのむとふくむのむと

高東清浦御下

重田作とふくむのむとふくむのむと
ち——す 高東清浦御下

ふくむのむとふくむのむとふくむのむと
高東清浦御下

ふくむのむとふくむのむとふくむのむと
ふくむのむとふくむのむとふくむのむと

ふくむのむとふくむのむとふくむのむと
ふくむのむとふくむのむとふくむのむと

いふことなり

東大寺

けしきなりとていふことなり
けしきなりとていふことなり
けしきなりとていふことなり
けしきなりとていふことなり

小弁

あつていふことなり
あつていふことなり
あつていふことなり
あつていふことなり

東大寺

いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり

いふことなり

東大寺

いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり

東大寺

いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり

いふことなり

東大寺

いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり
いふことなりとていふことなり

いふことなり

東大寺

月をねのそめゆきとてぬりまけり
池にほつゆけり百のすゝと
うつもろいなる

源後頼朝

木杵のきぬきぬきゆきとて月のすゝと
うつもろいなる
移ぬき人け家へ百のすゝと
うつもろいなる

高木隆信

おの月をねのそめゆきとてぬりまけり
月のすゝと

高木隆信

おの月をねのそめゆきとてぬりまけり
月のすゝと
おの月をねのそめゆきとてぬりまけり
月のすゝと

高木隆信

おの月をねのそめゆきとてぬりまけり
月のすゝと
おの月をねのそめゆきとてぬりまけり
月のすゝと

源後頼朝

わたり人ゆかりの山川をてふる流る月影

百有のすれちの月のきくてもや

うけり 雲田屋沙家

おしる海は凡そなるとるに秋の月

大炊少輔右大臣

ふとくまのさねは流る月影のきくてもや

白鳥宗文左衛門

るるるれ白鳥のてふる流る月影

源後清輔朝臣

はるの月影は身れてさるるるるるる

はるの月影は身れてさるるるるるる

はるの月影は身れてさるるるるるる

はるの月影は身れてさるるるるるる

源後頼朝

はるの月影は身れてさるるるるるる

源後頼朝

はるの月影は身れてさるるるるるる

源後頼朝

はるの月影は身れてさるるるるるる

は世に入道まをぬくはのあふり
うゝあふりうゝあふり

お幸ふお幸ふ

まふるまふる
百有うううううううう
ううてううてううて

お幸ふお幸ふ

まふるまふる
はる月うううう

お幸ふお幸ふ

まふるまふる
まふるまふる
まふるまふる

お幸ふお幸ふ

まふるまふる
まふるまふる
まふるまふる

お幸ふお幸ふ

まふるまふる
お幸ふお幸ふ

月をまゝとらんとす

頼国は神

此月の光をわれは海牙東をとりよしむる也
月也東を東ととらんとす

東東親戚

海牙東を東ととらんとす
東ととらんとす
東東親戚

東ととらんとす
東ととらんとす
東ととらんとす

東ととらんとす
東ととらんとす
東ととらんとす

東東親戚

東ととらんとす
東ととらんとす
東ととらんとす

東ととらんとす
東ととらんとす
東ととらんとす

東ととらんとす

東東親戚

東ととらんとす
東ととらんとす
東ととらんとす

千載和歌集卷第五
秋五

郎と守 ちかみと守

遠うらうらふれりめは秋の夜長
遠川流るる時百そのうちを

けいふふふふふ 有東仲実郎

さうのうらふれりめは秋の夜長
さうのうらふれりめは秋の夜長
けいふふふふふ

蘇東坡通下

杖より杖と佛の杖より杖と
 は竹寺入道常の杖より杖と
 ふらん常曲る杖より杖の杖と
 今や杖より杖と

蘇東野

高きより下りてくたのよむひくくまのまゝ
 馬鹿二年ゆゑのうらなひ

蘇東正家節下

又乃其より新東原風より今わろ希のた

長元江師

少津 亦七人との書意のふと云ふ

彭子
溪人不知

中へいふようのやうな人々をいふは
原る也

宋運江師

我門はゆふのいづれにわたりて之の如く所を
 中より流るるもは流れて秋の末をたぬるを

あふさるる

秋のふきかきとて我のふきかきとて
まかりかきとていふ

あふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

あふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

あふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

あふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

あふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

あふさるるあふさるるあふさるる
あふさるるあふさるるあふさるる

わがやうな人だ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

ふたりのあひだ

考の考とてゐる

は
橋
宗
魯

夕穿や枯れ葉とてらん星入神の交のShunwari
書馬車一羽とてらん心とて心や花の香

景范院所製

秋の夜更けの月を
白く照らす

名來識親陸

修心て是より下を帝のまかせ成て見
比叡寺入道者取大信内人信ふ物

とて家のよりなりやむとて

蘇東坡

高きれいふうゝおとこてゆふはひの甘菊
 月照菊苑とて人々をよめけり

肉人信

白濁のふとふと流るる病を正しく
新薬が必要と云ふ人々を説く

常人所不知也

常々これのいふことゝなるべしと白面
 ありてしるべし

人物と文章

後文に「...」とあり、その後の文章は、

文中物と云ふ

「...」とあり、その後の文章は、

文中物と云ふ

「...」とあり、その後の文章は、

文中物と云ふ

「...」とあり、その後の文章は、

文中物と云ふ

文中物と云ふ

「...」とあり、その後の文章は、

文中物と云ふ

文中物と云ふ

「...」とあり、その後の文章は、

文中物と云ふ

「...」とあり、その後の文章は、

文中物と云ふ

文中物と云ふ

「...」とあり、その後の文章は、

文中物と云ふ

後東は師

よきれいせいのいふ年引くはあかりすえき

通目江師

大井のうへてあつたふらふらふのいふ

百ちのすよふちふちふちふち

後東は補部

今ふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふ

祝部成神

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

後東は師

あふふふふふふふふふふふふふふふふ

ね同あふふふふふふ

後東は師

あふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふ

推高は師

あふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふふ

原注れ印

つらねれ社印のつらねれ社印のつらねれ社印

明治二年の裏のつらねれ社印のつらねれ社印

明治二年の裏

明治二年の裏のつらねれ社印のつらねれ社印

明治二年の裏のつらねれ社印のつらねれ社印

明治二年の裏のつらねれ社印のつらねれ社印

明治二年の裏のつらねれ社印のつらねれ社印

明治二年の裏のつらねれ社印のつらねれ社印

明治二年の裏

千載和歌集卷第六

みそ

源氏物語
みそみそみそみそ

みそみそみそ

みそみそみそみそみそみそみそ

源氏物語

みそみそみそみそみそみそみそ

源氏物語

みそみそみそみそみそみそみそ

みそみそみそみそみそみそみそ

みそみそみそ

源氏物語

みそみそみそみそみそみそみそ

源氏物語

みそみそみそみそみそみそみそ

源氏物語

みそみそみそみそみそみそみそ

源氏物語

みそみそみそみそみそみそみそ

へるまへに：こゝろ

ふたつ

ちやうどいふやうな事

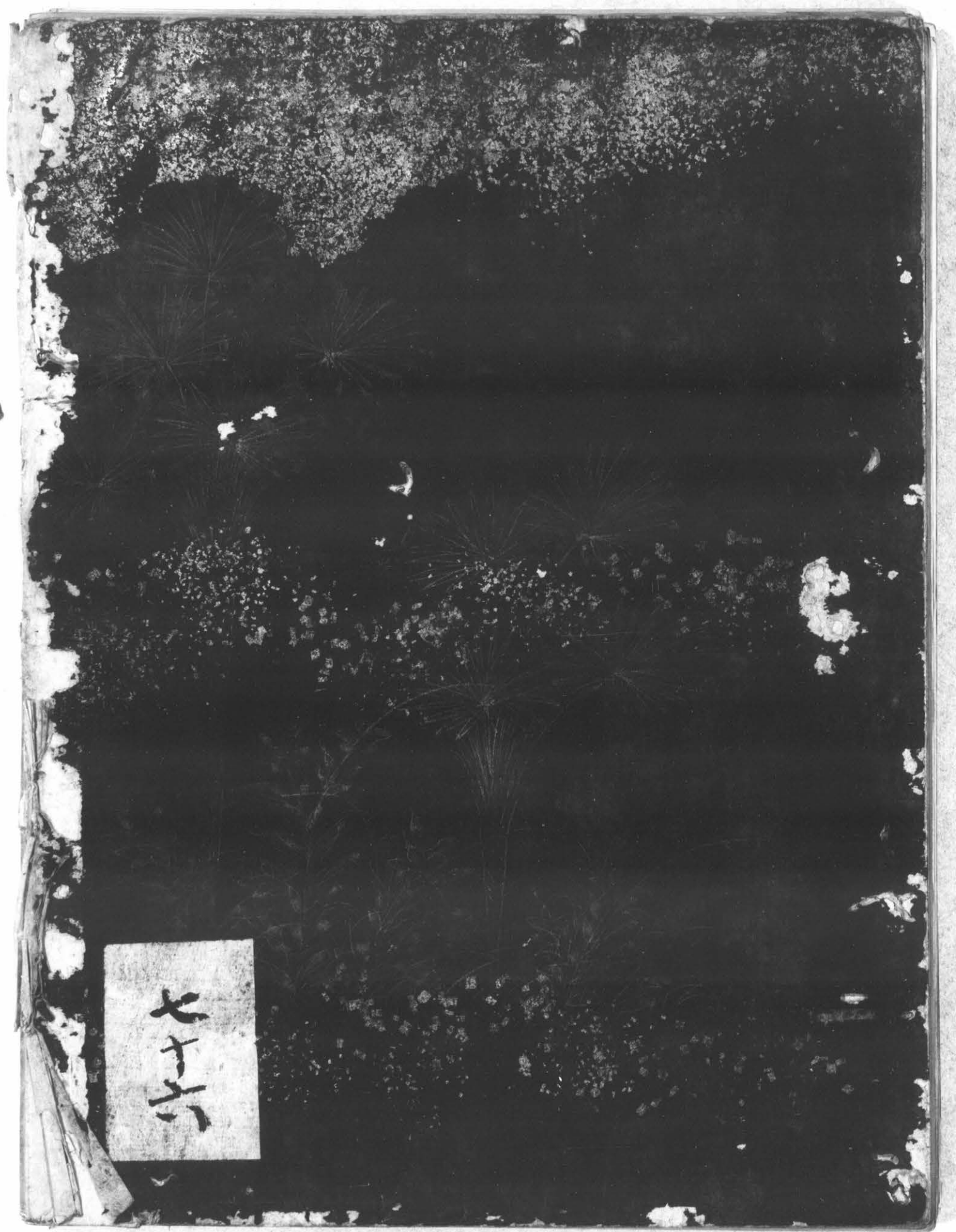
う

ふたつ

へるまへに：こゝろ
ちやうどいふやうな事

ふたつ

へるまへに：こゝろ



44-1